

土木工事特記仕様書（令和元年7月1日以降適用）

（土木工事共通仕様書の適用）

第1条 本工事は、「徳島県土木工事共通仕様書 平成28年7月」に基づき実施しなければならない。なお、「徳島県土木工事共通仕様書」に定めのないもので、機械工事の施工にあつては「機械工事共通仕様書（案）」（国土交通省総合政策局公共事業企画調整課）、電気通信設備工事にあつては「電気通信設備工事共通仕様書」（国土交通省大臣官房技術調査課電気通信室）に基づき実施しなければならない。

2 ただし、共通仕様書の各章における「適用すべき諸基準」で示された示方書、指針、便覧等は改定された最新のものとする。なお、工事途中で改定された場合はこの限りでない。

（土木工事共通仕様書に対する変更仕様事項）

第2条 「徳島県土木工事共通仕様書 平成28年7月」に対する【変更】及び【追加】仕様事項は、次のとおりとする。

（共通仕様書の読み替え）【変更】

「徳島県土木工事共通仕様書 平成28年7月」の「第1編共通編」において、「7日以内」、「5日以内」、「7日まで」とあるのは「土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内」と、「翌月5日」とあるのは「翌月10日」と、それぞれ読み替えるものとする。また、「2-1-3-1県内産資材の原則使用」において、「請負代金額」とあるのは「当初請負代金額」と読み替えるものとする。

（工事实績データの登録）【変更】

1-1-1-6 工事实績データの登録

受注者は、請負代金額が500万円以上の工事については受注・変更・しゅん工・訂正時に、工事实績情報サービス（コリンズ）に基づき、工事实績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員の確認を受けた上、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、しゅん工時は工事しゅん工承認後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、訂正時は適宜登録機関に登録をしなければならない。

なお、変更登録は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、請負代金額のみの変更の場合は、原則として登録を必要としない。

また、登録機関発行の「登録内容確認書」が受注者に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。

なお、変更時としゅん工時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。

（トラック（クレーン装置付）における上空施設への接触事故防止装置の使用）【変更】

1-1-1-35 工事中の安全確保

7. トラック（クレーン装置付）における上空施設への接触事故防止装置の使用

受注者は、トラック（クレーン装置付）を使用する場合は、上空施設への接触事故防止装置（ブームの格納忘れを防止（警報）する装置又はブームの高さを制限する装置）

付きの車両を原則使用しなければならない。なお、平成31年度末までは経過措置期間とするが、この期間においても使用に努めなければならない。

【建設副産物】【変更】【追加】

1-1-1-23 建設副産物

4. 再生資源利用計画

受注者は、資源の有効な利用の促進に関する法律（以下「資源有効利用促進法」という。）に基づく建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令（H3. 10. 25建設省令第19号）第8条で規定される工事，又は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）施行令第2条で規定される工事（以下「一定規模以上の工事」という。）において，コンクリート（二次製品を含む），土砂，砕石，加熱アスファルト混合物又は木材を工事現場に搬入する場合には，（一財）日本建設情報総合センターの建設副産物情報交換システム（以下「COBRIS」という。）により再生資源利用計画書を作成し，監督員の確認を受けなければならない。

5. 再生資源利用促進計画

受注者は，資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令（H3. 10. 25建設省令第20号）第7条で規定される工事，又は一定規模以上の工事において，建設発生土，コンクリート塊，アスファルト・コンクリート塊，建設発生木材，建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には，COBRISにより再生資源利用促進計画書を作成し，監督員の確認を受けなければならない。

6. 実施書の提出

受注者は，再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成した場合には，工事完了後速やかにCOBRISにより再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し，監督員に提出しなければならない。

7. COBRISの入力方法

受注者は，COBRISの入力において，資材の供給元及び搬出する副産物の搬出先について，その施設名，施設の種類及び住所を必ず入力しなければならない。ただし，バージン材を使用する生コンクリート及び購入土を除くものとする。

8. 舗装版切断に伴い発生する排水の処理等

受注者は，舗装版の切断作業を行う場合，切断機械から発生する排水は，排水吸引機能を有する切断機等により回収し，回収した排水については，廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき，適正に処理しなければならない。

9. 建設リサイクル法通知済証の掲示

受注者は，一定規模以上の工事においては，工事現場の公衆の見やすい場所に工事着手日までに「建設リサイクル法通知済証」を掲示し，工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかななければならない。また，「建設リサイクル法通知済証」掲示後の全景の写真は，電子納品の対象書類とし，「徳島県電子納品運用ガイドライン【土木工事編】」に基づき提出することとする。なお，「建設リサイクル法通知済証」は契約締結後から工事着手日までの期間に発注者から支給することとする。

【工場の選定】【変更】

1-3-3-2 工場の選定

1. 一般事項

受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合の工場選定は以下による。

- (1) JIS マーク表示認証製品を製造している工場（工業標準化法の一部を改正する法律に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により製品に JIS マーク表示する認証を受けた製品を製造している工場）で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技士等）が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場（以下、「マル適マーク使用承認工場」という。）等）から選定しなければならない。受注者は、選定した工場がマル適マーク使用承認工場である場合、品質管理監査合格証の写しを使用前に監督員に提出しなければならない。

（当初未確定な部分の施工計画書）【追加】

1-1-1-5 施工計画書

4. 当初未確定な部分の施工計画書

受注者は、工事着手日（設計図書に定めのある場合を除き、特別の事情がない限り、工事開始日以降30日以内）までに未確定な部分（施工方法等の詳細が定まっていない場合等）の施工計画書は作成せず、詳細が確定した段階で、当該部分の施工計画書を作成し、監督員に提出することができるものとする。

（第三者機関による品質証明）

第3条 受注者は、東洋ゴム化工品株式会社及びニッタ化工品株式会社で製造された製品や材料を用いる場合は、契約時点で第三者機関による品質を証明する書類を提出しなければならない。

（1日未満で完了する作業の積算）

第4条 「1日未満で完了する作業の積算」（以下、「1日未満積算基準」と言う。）は、変更積算のみに適用する。

- 2 受注者は、徳島県土木工事標準積算基準書 I-12-①-1 ～ I-12-①-6 に記載の施工パッケージ型積算基準と乖離があった場合に、1日未満積算基準の適用について協議の発議を行うことができる。
- 3 同一作業員の作業が他工種・細別の作業と組合せて1日作業となる場合には、1日未満積算基準は適用しないものとする。
- 4 受注者は、協議にあたって、1日未満積算基準に該当することを示す書面その他協議に必要となる根拠資料（日報、実際の費用がわかる資料等）を監督員に提出すること。実際の費用がわかる資料（見積書、契約書、請求書等）により、施工パッケージ型積算基準との乖離が確認できない場合には、1日未満積算基準は適用しないものとする。
- 5 通年維持工事、災害復旧工事等で人工精算する場合、「時間的制約を受ける公共土木工事の積算」を適用して積算する場合等、1日未満積算基準以外の方法によることが適当と判断される場合には、1日未満積算基準を適用しないものとする。

(デジタル工事写真の小黑板情報電子化)

第5条 受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の実施を希望する場合は、監督員の承諾を得たうえで、デジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事（以下、「対象工事」という）とすることができる。

2 対象工事は、下記ホームページ掲載の「デジタル工事写真の小黑板情報電子化の運用について」に記載された全ての内容を適用することとする。

徳島県 CALS/EC ホームページ

「各種ダウンロード【県土整備部】 - デジタル工事写真の小黑板情報電子化の運用について」

<http://e-denshinyusatsu.pref.tokushima.jp/cals/>

(現場打ちの鉄筋コンクリート構造物におけるスランプ値の設定等)

第6条 現場打ちの鉄筋コンクリート構造物の施工にあたっては、「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン（平成29年3月）」を基本とし、構造物の種類、部材の種類と大きさ、鋼材の配筋条件、コンクリートの運搬、打込み、締固め等の作業条件を適切に考慮し、スランプ値を設定するものとする。ただし、一般的鉄筋コンクリート構造物においては、スランプ値は12cmとすることを標準とする。

2 受注者は、設計図書のスランプ値の変更に際して、コンクリート標準示方書（施工編）の「最小スランプの目安」等に基づき協議資料を作成し、監督員へ提出し協議するものとする。なお、品質確認方法については、監督員と協議するものとする。

(鉄筋コンクリートの適用すべき諸基準)

第7条 徳島県土木工事共通仕様書の「第1編 共通編 第3章 無筋・鉄筋コンクリート 第2節 適用すべき諸基準 1.適用規定」に定める基準類に「機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン」を加えることとする。

(熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行)

第8条 本工事は、日最高気温が30度以上の真夏日の日数に応じて現場管理費の補正を行う試行工事であり、別に定める「熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行要領（以下「試行要領」という。）」を適用する。

2 施工箇所点状型の場合、点在する箇所毎に日最高気温が30度以上の真夏日の日数に応じて補正を行うことができるものとする。

3 夜間工事の場合、作業時間帯の最高気温が30度以上の真夏日を対象に補正を行うことができるものとする。

4 試行にあたり、気温の計測方法及び計測結果の報告方法について事前に監督員と協議を行うものとする。尚、計測方法は最寄りの気象庁公表の地上気象観測所の気温（日最高気温30℃以上対象）または環境省公表の観測地点の暑さ指数（WBGT）（日最高WBGT 25℃以上対象）を用いることとする。

熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行要領

徳島県 HP <https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kendozukuri/kensetsu/2009082402601>

(仮設トイレの洋式化)

第9条 受注者は、仮設トイレを設置する場合、原則として「洋式トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ（快適トイレ又は洋式トイレ）」を設置しなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。

- 2 受注者は、現場代理人及び主任技術者が女性の場合、設置する仮設トイレについては、「快適トイレ」を標準とする。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。
- 3 受注者は、仮設トイレを設置した場合、「仮設トイレ設置報告書」を監督員に提出しなければならない。

- ・洋式トイレとは、和式トイレの便座部分を洋式化した仮設トイレのこと。
- ・快適トイレとは、洋式トイレのうち、防臭対策・施錠の強化などが実施された、女性が利用しやすい仮設トイレのこと。

(情報共有システム活用工事)

第10条 受注者は、土木工事において情報共有システム（以下、「システム」という。）の活用を希望する場合は、監督員の承諾を得たうえで、システム活用の試行対象工事（以下、「対象工事」という）とすることができる。

- 2 対象工事は、下記ホームページ掲載の「土木工事における情報共有システム活用試行要領について」に記載された全ての内容を適用することとする。

徳島県 CALS/EC ホームページ

「土木工事における情報共有システム活用試行要領について」

<http://e-denshinyusatsu.pref.tokushima.jp/cals/>

(担い手確保モデル工事)

第11条 本工事は、建設工事の中長期的な担い手の確保等を目的とした「担い手確保モデル工事（受注者希望型）」であり、別に定める「担い手確保モデル工事実施要領（以下「実施要領」という。）」を適用する。

- 2 実施要領に基づき本工事で担い手確保モデル工事として試行を希望する場合は、契約後すみやかに試行の意思を発注者に通知しなければならない。
- 3 本工事を受注した者は、発注者から指示があった場合は、建設現場の週休2日にかかるアンケート調査に協力しなければならない。

担い手確保モデル工事実施要領

徳島県 HP <https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kendozukuri/kensetsu/5016115/>

(本工事の特記仕様事項)

第12条 本工事における特記仕様事項は、次のとおりとする。

(本工事における特記仕様事項を記載)

仮設トイレ設置報告書

次の工事において、仮設トイレを設置したので報告します。

1 工事名					
2 受注者名					
3 現場代理人	印				
4 提出年月日	令和 年 月 日				
5 設置した仮設トイレ	設置数 (基)	基本料金 (円)	1ヶ月料金 (円)	設置期間 (月)	合計 (円)
<input type="checkbox"/> 和式トイレ	×	(+	×) = 0
<input type="checkbox"/> 洋式トイレ	×	(+	×) = 0
<input type="checkbox"/> 快適トイレ	×	(+	×) = 0
	[規 格] 幅 mm × 奥行 mm × 高さ mm [付加機能]				
■ 設置期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日				
■ レンタル会社					
<和式トイレの場合>					
■ 洋式化できなかった理由					
6 備考					
<発注者(監督員)が記入>					
7 監督員					

※ 監督員は内容を確認後、メール及びファックスで建設管理課へ報告して下さい。

第1章 総 則

第1条 適 用

1. この仕様は、R1阿土 福井川 阿南・橘 樋門工事（2）（以下、「本工事」という。）のゲート設備の製作、据付工事に適用する。
2. 本工事の施工にあたっては、本仕様書、設計計算書、数量計算書、図面によるほか、共通仕様書によるものとする。
なお、本仕様書で定めた事項は、共通仕様書より優先するものとする。

第2条 準拠規定

本工事の施工にあたっては、設計図書によるほか、下記に示す基準等に準じて実施しなければならない。これらの基準等は、現時点における最新のものを適用しなければならない。

- | | |
|----------------------|--------------|
| (1) ダム・堰施設技術基準(案) | (ダム・堰施設技術協会) |
| (2) 機械工事施工管理基準(案) | (国土交通省) |
| (3) 機械工事完成図書等作成要領(案) | (国土交通省) |
| (4) 徳島県土木工事共通仕様書 | (徳島県) |
| (5) コンクリート標準示方書 | (土木学会) |

第2章 工事の概要及び施工条件

第3条 工事概要

本工事は、ステンレス製バランスウエイト式フラップゲート（川表）、ステンレス製ローラゲート（川裏）及びゲート開閉機（手動）の製作・設置を行うものとする。

第4条 工事施工範囲と施工条件

1. 本工事の施工範囲は、別表-1に示す設備の製作・据付及び現地試運転までとする。

なお、請負者は、樋門完成までに管理者に対する操作説明を行うものとし、この操作説明会は本工事の工事範囲に含まれるものとする。

2. 以下の関連工事は、本工事の施工範囲外とする。

- (1) 樋門周りのコンクリート工事
- (2) コンクリートの箱抜き工事
- (3) 工事用道路の設置

3. 据付責任分界点

発注者側において施工する工事と請負者において施工する工事との責任分界点は、次のとおりとする。

〈責任分界点〉

- (1) 箱抜き施工部分の二次コンクリート充填
- (2) 埋設金具、アンカーボルト等の施工

〈施工区分〉

- 本工事範囲内
本工事範囲内

別表-1 施工範囲

区分	種別	細別	単位	数量	施工内容	摘要
排水樋門	ステンレス製バランスウエイト式フラップゲート	扉体	門	1	製作・据付	フロート付
		バランス装置	門	1	製作・据付	
		戸当り	門	1	製作・据付	
		開閉装置	基	1	製作・据付	軸受ブラケット
		維持管理装置	門	1	製作・据付	レバーブロック
		防護蓋、スクリーン	門	1	製作・据付	
	ステンレス製ローラゲート	扉体	門	1	製作・据付	
		戸当り	門	1	製作・据付	
		開閉装置	基	1	製作・据付	30kN手動ラック型
		操作台	門	1	製作・据付	ステンレス製
		管理階段	門	1	製作・据付	ステンレス製
		操作台防護柵	門	1	製作・据付	ステンレス製
		スクリーン(川裏)	門	1	製作・据付	手動ウインチ、10kN

第3章 設計条件及び基本条件

第8条 設計条件

1. 設備の機能

本設備は、福井川左岸に新設する湊第一樋門の排水ゲートである。

2. 操作の基本

通常時のゲートは、全開状態にある。

3. 基本条件

(1) ステンレス製バランスウエイト式フラップゲート (川表)

形 式	ステンレス製バランスウエイト式フラップゲート
設 置 数	1 門
純 径 間	1.750 m
有 効 高	2.500 m
設 計 水 深	外水位 4.622 m 内水位 0.000 m
水 密 方 式	後面4方ゴム水密
開 閉 方 式	内外水位差による自動開閉 通常時開扉角度 約7° 程度 最大開閉角度 約84° 程度 3割水深で完全閉塞
操 作 方 式	内外水位差による自動開閉
た わ み 度	1/600以下
適 用 基 準	ダム・堰施設技術基準(案)

(2) ステンレス製ローラゲート (川裏)

形 式	ステンレス製ローラゲート
設 置 数	1 門
純 径 間	1.750 m
有 効 高	2.500 m
設 計 水 深	外水位 4.622 m 内水位 0.000 m
操 作 水 深	開時 外水位 0.900 m 内水位 1.900 m 閉時 外水位 5.522 m 内水位 1.900 m
水 密 方 式	前面4方ゴム水密
開 閉 方 式	30kN手動ラック型 (1本吊り)
操 作 方 式	手動
適 用 基 準	ダム・堰施設技術基準(案)

第4章 設計及び製作

第9条 設計一般

設計図書に示されていない事項については、ダム・堰施設技術基準(案)に従うものとする。

第10条 使用材料

各部に使用する材料の規格・材質は、次表に示すもの、またはこれらと同等品以上のものとする。

使用箇所		規格番号	材質・規格	摘要
扉体	主要部材	JIS G 4304	SUS304	鋼板、形鋼
	水密ゴム		CR	
戸当り	露出部	JIS G 4304	SUS304	鋼板、形鋼
	埋設部	JIS G 3101	SS400	
スクリーン	主要部材	JIS G 4304	SUS304	鋼板、形鋼
操作台、防護柵、 管理階段	主要部材	JIS G 3101	SS400	鋼板、形鋼
		JIS G 3466	STKR400	

水密ゴムの材質は、次のとおりとする。

材質	合成ゴム（クロロプレン系）
ゴム形状	P形
引張り強さ	14.7 N/mm ² 以上
硬さ（ショア）	50°～70°
吸水率（重量比）	5%以下
破断時の伸び	300%以上
比重	1.1～1.6

第5章 塗 装

第11条 塗 装

1. 露出部のステンレス鋼は、酸洗いの後、もらい錆防止のためクリアラッカーを塗装する。
2. 付属鋼製金物は、溶融亜鉛メッキとする。
溶融亜鉛メッキ JIS H 8641
付着量 550 g/m²以上

第6章 据 付

第12条 据 付

1. 本工事は、据付場内で施工するものとする。
2. 土木工事施工は、土木工事共通仕様書によるものとする。

(1) 二次コンクリート

二次コンクリート仕様については、次のとおりとする。

種 別	粗骨材最大 寸法(mm)	スランプ (cm)	呼び強度 (N/mm ²)	セメント種別	摘 要
レディーミクストコ ンクリート (鉄筋コンクリート)	20 又は 25	12	24	普通ポルトラン ドセメント又は 高炉セメント	空気量 4.5%

第13条 現場用地

請負者が現地施工期間に使用する現場事務所及び製品、機材置場などとして無償で使用できる用地は、官地内とする。

第14条 据付方法

工場より一体で輸送された戸当り金物、扉体、開閉装置を、トラッククレーン吊り込み工法で施工するものとする。

第15条 仮設機材

本工事に使用する仮設機材は、全て請負者の負担とする。